平成 24 年度研修員　伊藤重之さんの声

プロフィール

米国のロースクール卒業後、企業法務の弁護士としてニューヨークと東京で六年間勤務する。以前から興味があった法整備の仕事を志し本事業に参加する。海外実務研修は国連薬物犯罪事務所（UNODC）ラオス事務所の犯罪防止専門家として人身売買、腐敗、テロ防止のプロジェクトに携わる。現在は JPO としてニューヨークにある国連開発計画（UNDP）本部の政策・プログラム支援局に所属、「法の支配，司法及びセキュリティーチーム」（UNDP Bureau of Policy and Programme Support, Rule of Law, Justice and Security Team）の一員として業務に従事している。

１．平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

弁護士時代に携わった海外投資案件から途上国の法整備に興味を持ち、将来はそれに関わる仕事をしたいと希望していました。弁護士としては 6 年勤務していたものの国際機関や法整備における実務経験が無かった為、国内研修で理論を学び海外研修で国連ボランティアとして 1 年間実務経験を積める平和構築人材育成事業はキャリアチェンジをするためには魅力的に思えました。

２．国内研修の感想は？

とても充実した時間でした。6 週間と短い時間でしたが、篠田広島大学教授（当時）を始め、優秀な講師の方々が実務的な講義を組み立ててくれた為とても勉強になりました。紛争分析、プロジェクトマネジメントやモニタリング評価等、開発の勉強をした事がなかった自分としては初めて耳にする内容が多かったです。研修中は深く理解していなかったトピックについても、実際に仕事でその話になった時生かすことができ大変有意義でした。今思うと講師の方々が実務経験から学んだ内容を講義に反映させていたので貴重な経験でした。

また、国内研修の際に、陸上自衛隊の駐屯地で行われた研修について、当時は PKO に派遣を希望していた訳ではなかったので自分にはあまり必要ないかと思っていましたが、JPO の任期が始まって早速アフガニスタンに出張する事になったため、紛争地での安全についての講義も受けておいて良かったと思いました。

そして何より他の研修員との交流は貴重でした。研修員の間では国籍を問わず仲良く過ごし、今でも交流があります。他の研修員との交流も国内研修の一つの目的だと篠田先生が仰っていましたが、研修を終え 2 年近く経った今になってその言葉の意味を理解できたように思います。

３．海外実務研修での活動について教えてください。

UNODC ラオス事務所に派遣されました。ラオス事務所は不正薬物と犯罪を扱うチームに分かれており、私は犯罪防止チームの一員として人身売買、腐敗、テロ防止等のプロジェクトに従事しました。

最初はワークショップの準備、会議への参加、プレゼン資料の作成、ドナー定期報告書の作成等、現場でプロジェクト実施に必要な作業をしていました。それら作業を通してどのような工程で法整備が実施できるのかを学び、プロジェクト実施において、ドナーや現地政府と信頼関係を築くことの重要性に気付きました。
また、直属の上司が日本人でとても親切でしたので日常的な業務から自身のキャリアについてまで相談することができました。初めての国際機関経験でこのような良い上司に出会えた事はとても幸運だったと思います。

【左：ラオスにて国際連合腐敗防止条約の会議に出席】　【右：UNODC を代表してスピーチをする伊藤さん】

そして、比較的小さな機関のカントリーオフィスであったため、インターナショナルスタッフは自分も含め三人と少なく、派遣されて半年が過ぎた頃には所長に続き所長代理を務めていた直属の上司の異動により、実質上司がいない状況となり現地職員や地域事務所の先輩の力を借りてプロジェクトを実施する事になりました。プロジェクトマネージメントの勉強になり，また事務所を代表して演説をしたり、会議に出席したのは光栄でしたし、とても良い思い出になりました。

４． 就職先での活動について教えてください。

現在は UNDP 本部政策・プログラム支援局の「法の支配，司法及びセキュリティーチーム」において紛争国で実施されている、或いは検討されている法の支配及び司法制度のプログラムの支援をしています。また、現在の職場に配属されてから 8 ヶ月が過ぎましたが、そのうち 3 ヶ月はアフガニスタンで過ごしました。

５． 就職先での感想は？一番印象に残っていることは？

UNODC ラオス事務所とは違い大きな組織の新人になったので、弁護士事務所の 1 年目に戻った気分でした。事務的な作業が多く、また現場からは遠いため法整備の仕事をしているという実感はあまり感じる事ができず、戸惑いもありました。

幸い所属するチームは現場へのミッションが多く、今のところはアフガニスタンが長いのですがこれからは他の国へも行く機会がある事を期待しています。現場へ定期的に行けるので本部

と現場両方を経験できる事は恵まれていると思います。

６． 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後も司法制度改革に関連する分野でキャリアを構築したいと思います。まだ経験が浅いので、次の数年間は現場経験を積みたいと思います。やはり平和構築は現場中心に築き上げられているので国際機関の職員としては現場を理解する必要があると思います。理論通りに動かないからこそ紛争があるわけで、理論のみで論じるのは簡単ですが実際に平和を構築するには限界があると思います。理論は理論として理解しつつ、常に変化し続ける現実に柔軟且つ堅実に対応できるようになりたいです。

７． 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

私自身は平和構築人材育成事業に参加した事は大変有意義且つ有益だったと思います。民間での経験しかなかったので当事業に参加する事が新しい業界へのステップになり、当事業に参加していなければ現在 UNDP で勤務していなかったと思います。このような機会を設けていただき外務省、当事業の講師及び運営していただいた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

参加を考えている方々に一つだけ注意したいことは、国際機関で勤務する事を希望し当事業に参加を望んでいる方が多いと思いますが、当事業に参加する事により研修後希望する機関で希望する職種に付く事はまったく保証されていないことです。海外実務研修の派遣先選考の場面でもそうですが、国際機関は即戦力を求めている為今までの実績や能力に加え、運によりポストが決まり、希望通りにはならない事もあります。また、研修員は研修費だけではなく「時間」も投資する事になるので、それに見合うようなリターンを得られるかを考慮し、そしてリスクも伴う事を理解し参加されるのが望ましいと思います。

研修員の方々には将来お会いする事もあると思うので、それまで楽しみながら色々と経験を積んでください。皆様の活躍を期待しています、お互いがんばりましょう！